令和5年度 No.10

駒岡小学校だより

２月号

災害に備えて

副校長　都甲 理文

令和6年１月１日に発生した能登半島地震で、輪島市内の観測点で震度７を観測し、200人以上の方々が亡くなり、今も日常の生活に戻れない方々がいます。令和6年能登半島地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、1月26日（金）の中休みの時間に、子どもたちにあらかじめ避難訓練を行うことを伝えず、訓練を行いました。この訓練は、今までの避難訓練で学んだことを生かし、子ども自身が判断し、安全に避難することをねらいとしています。訓練当日、子どもたちは放送の指示をしっかりと聞いて、自分で判断して落ち着いて避難していました。その姿に頼もしさと積み重ねの大切さを実感しました。

学校では、いつ起こるか分からない災害に備えて、いろいろな場面を考えて避難訓練を行っています。授業中、休み時間など、時間を変えたり、火災の出火場所を変えたりして、どんなときでも自分で判断し、安全に避難ができるようにするために、繰り返し訓練を行います。

火事のときには、いろいろなものが燃えて、炎と一緒にたくさんの煙が出ます。その煙を吸って意識が失われ、亡くなる人がいるそうです。また、煙は特に上方向へ人の何倍もの速さでのぼっていくそうです。したがって、学校では、煙を吸わないようにハンカチで口を押さえて、姿勢を低くして避難するように指導をしています。訓練の中で、次のような「お・か・し・も」の約束を子どもたちに伝えています。

㊀さない　㊁けない　㊂ゃべらない　㊃どらない

すばやく行動することは大事なことですが、階段などで前の人を押したり、走って友達とぶつかったりすると、大きなけがにつながります。校内放送や先生の指示をよく聞いて、火元から通れない場所をよく考えて安全な経路を探す必要があります。

災害はいつ、どこで起こるか分かりません。学校で行われる避難訓練などを機会に、家で留守番しているときや外で遊んでいるときなど、もしものときに備えてどのような行動をすればいいのか、防災について、ご家庭でも話し合い、確認していただけると幸いです。

能登半島地震を通して、命の尊さや、自助力・共助力の大切さだけでなく、思いやりの心など、人としての優しさについて改めて考えさせられました。